

【成果と課題】

- ・「八丈給食」をいただく、作る。

大崎様にご指導いただき、「八丈給食」をより深く理解するため中学校に伺い、生徒と同じ給食を食べさせていただきました。また、中学生たちの給食を食べている様子や感想を聞くことができました。

この経験を基にして大崎様から頂いたメニューを見ながら八丈島の食材を使い、本校調理室をお借りして八丈給食を実際に作ってみました。食材は生徒のご家族の方が作っている野菜、八丈漁協から購入した新鮮な食材なども使い作りました。生徒たちは「八丈給食」を作りながら、『新鮮なものは栄養価も高い＝健康にも良い』、『地産地消は地域の発展にもつながる』などを学ぶことができました。

島の食材を使った料理の素晴らしさをどのように伝えていくのが、今後の課題です。



大崎様に習い、給食を作成している様子

- ・八丈島の自然

八丈ビジターセンターの高須様にお話を伺い、光るきのこの生態について詳しくお話を伺うことができました。それぞれの種類によって、自生している場所や生えている期間や光る部位等、これまでウェブサイトや書籍だけでは得ることができなかった知見を得ることができました。

八丈島に自生する「光るきのこ」の生態や価値についてより深く理解し、島内の方だけでなく島外の方に向けても伝えていくことが今後の課題です。

- ・八丈島の伝統食材（くさや）

くさやにする（主な）魚が、ムロアジ、トビウオになっているのは、当時（昔）はムロアジ、トビウオが多く取れていたからであるが、現在はいずれも漁獲量が少なくなっており、八丈近海で取れたものでなく、九州、四国、和歌山などから購入したムロアジでくさやを作成している。大島や新島のくさやはムロアジを取る漁師がいなく、他の地域から購入して作っている。そのため、同じくさやでも、八丈島近海でムロアジが取れている時期は大島、新島のくさやよりも新鮮なムロアジで作ることができるため、おいしいくさやを作ることができることが分かった。また、くさや液には乳酸菌が入っており、大学の研究者が調べたところ、薬品にもなりそうな乳酸菌が見つかるなど、くさや液の利用方法も多角的に考えられそうである。長田様は西洋料理の調理師との繋がりもあり、海外の「アンチョビ」と似たような使い方も考えられるので、海外進出など将来的に期待できる。ただし、くさや製造に携わる人が減ってきているのが問題となっている。

IV. 八丈学 II

1. 令和4年度『八文学Ⅱ』年間授業計画

				概要	詳細
4月	15日	第1回運営指導委員会	島民会議	合同授業	八文学Ⅰを1年生へ伝える
	22日			オリエンテーション	①八文学Ⅱの概要(教員紹介、島民会議、プレ個人探究の説明) ②マインドマップ
5月	6日			問を見つける①	①マインドマップ→興味 ※「興味×八文学Ⅱ」で議題への布石
	13日			問を見つける②	①興味→課題 ②島の課題、大人と話したい内容抽出(役場の意見も聞いておく→役場の総務課に聞いておく)
	27日			グループ探究(テーマ設定①)	①グループ分け ※班の数は10班前後(1班3人以上) ②テーマの背景を考える。
6月	10日	支庁展示終了		グループ探究(テーマ設定②)	①探究計画書の作成 ②調査、フィールドワーク、スライド作成
	17日			グループ探究(調査、資料作成①)	
	18日			グループ探究(調査、資料作成②)	調査、フィールドワーク、スライド作成
	24日				調査、フィールドワーク、スライド作成
7月	未定			グループ探究(調査、資料作成③)	調査、フィールドワーク、スライド作成
	未定			中間発表	
8月	課題			グループ探究(調査)	
9月	9日			グループ探究(調査、資料作成④)	調査、フィールドワーク、スライド作成
	18日 19日	八高祭		八高祭(調査の中間発表PTを掲示)	八高祭
	26日	第3回運営指導委員会			2年生で中間発表
10月	7日	プレ島民会議		プレ島民会議	プレ島民会議
	21日	学校運営協議連絡会		0	
	28日			プレ島民会議振り返り	プレ島民会議振り返り
11月	4日			グループ探究(調査、資料作成⑦)	プレゼンテーション研修
	10日	第4回運営指導委員会		0	調査、フィールドワーク、スライド作成
	11日		グループ探究(調査、資料作成⑧)	調査、フィールドワーク、スライド作成	
	18日		グループ探究(調査、資料作成⑨)	調査、フィールドワーク、スライド作成	
	25日	第8回コンソーシアム協議会	中間発表(2年、3年)	3or4グループに分けて、2年生、3年生の空いてる人、コンソーシアムで参加できる人	
12月	未定		グループ探究(調査、資料作成⑩)	調査、フィールドワーク、スライド作成	
	未定		グループ探究(調査、資料作成⑪)	島民会議事前打ち合わせ	
	21日	島民会議	『島民会議』	島民会議 午後に振り返り	
1月	13日		プレ個人探究オリエンテーション	宮下与兵衛先生(都立大学特任教授)講演会・講評	
	20日	第6回運営指導委員会	プレ個人探究オリエンテーション		
2月	3日		プレ個人探究テーマ設定①		
	10日		プレ個人探究テーマ設定③		
	17日		多摩・島嶼サミット準備		
	未定		多摩・島嶼サミット準備		
	17日	立川高校交流会	多摩・島嶼サミット(オンライン交流会)		
			個人探究		

2. 島民会議

【実施時期】 第2学年 1・2学期（4月～12月）

【学習目標】 ～八丈島の課題に気づき、解決の方法を探り、島民に伝える～

1年生の学習において、探究学習の手法を身に付けたことをふまえて、2学期末に行われる「島民会議」に向けての活動を行った。本活動は、八丈島についての課題を発見し、それを解決するための方策についての探究活動を実施し、最終的に八丈町に訴えるための意見書を考えることができることを目標とした。

【学習内容】

(1) 島民会議で話し合うテーマの設定

1学期の探究学習のテーマに基づき、島民会議で話し合うのにふさわしいテーマについて、生徒アンケートをとり、生徒と担当で構成される島民会議実行委員会により右記の11テーマにした。これらのテーマに対して、2学年普通科生徒38名が各班に分かれ、探究活動を行っていくことになった。

①海ゴミを利用したアクセサリーの開発と障害者福祉作業所への作業提案	
②海のゴミを減らす方策	③企業誘致について
④くさやのムロアジの代わりになる原材料の魚について	⑤リモートワークを利用した移住者増加について
⑥八丈島の公園の遊具・設備について	⑦雄のジャージー牛を利用したレシビの開発について
⑧町内バスの新タイヤについて	⑨野良猫カフェについて
⑩町立病院へのMRIの導入について	⑪八丈高校の標準服化について

(2) 実際の活動

担当教員および地域協働学習支援員の指導・支援の下、グループごとに探究をすすめた。具体的には、翌週までに調べてくる内容をグループ内で分担し、フィールドワークに行ったり、民間企業にインタビューを実施したり、アンケート調査を行ったりすることで知識を深め、協働で発表資料を作成した。調べ学習の傍ら、ファシリテーション研修や、教員主催の発表資料の作成・発表方法に関する研修を受講し、ファシリテーターやプレゼンターとしての知識技能を習得した。また、当日の会場設営については、グループごとに工夫を凝らし、より良い島民会議になるよう準備をした。



島民会議全体会の様子



島民会議分科会の様子

【成果と課題】

島民会議に向けた活動で、生徒たちは探究活動の実践をグループで分担して行うことができた。今年度は、昨年度の課題を生かし、生徒自らが行いたいテーマを実施したため、最後まで積極的に探究活動を実施することができた。また島民会議を踏まえて、新しい疑問等が生じたことにより、島民会議後も同じテーマの追及を引き続きグループで行っていきたいという声もあった。一方で、協議の回数がプレ島民会議と島民会議のみであるため、生徒の協議する力を伸ばす点が課題である。次年度以降は、小さい規模ではあるが、発表や協議の回数を増やしたい。

島民会議総括

1. 生徒の探究活動について

昨年度の反省から、探究のテーマとグループ決めについては、最初から最後まで興味のあるテーマを探究させ、フィールドワークの回数も昨年度より、多く行った。その結果、生徒は興味をもって最後まで探究活動をすることができた。また、調査する段階で多くの壁にぶつかったが、四苦八苦しながらも乗り越え、最終的にはテーマについてしっかり向き合い、内容を深める探究活動ができた。

探究活動の課題としては、生徒の意見、島民会議参加者の意見からもあったが、協議する回数が少なく、議論する力をさらに伸ばした方がよい。次年度については、小規模で地域の方と協議する機会を設ける必要がある。また、毎年の活動をデータベース化し、先輩から後輩への引継ぎ資料を行う必要もある。

2. 島民会議の運営について

運営に関しては、昨年度の経験が生き、比較的スムーズに当日を迎えることができた。また、受付、全体会の司会等、昨年度は教員が主として担当していたものが、生徒が担当し、島民会議全体を生徒によって運営することができた。次年度は、実行委員会等がさらに中心になり、より生徒中心の運営にできるとよい。また、教員が行っていた運営全体に関しても、地域協働学習実施支援員など、地域に段階的に移行する必要がある。

島民会議の内容の時間配分について、生徒との協議の時間が少ない（昨年度に比べて、今年度は20分程度増であったが）という意見が多くあった。全体会①についての通信機器の問題（音声の質など）もあることから、全体会①を縮小し、分科会の時間を増やすように次年度は実施したい。全体会②についても、1分程度の分科会報告では、分科会の概要は話すことができないため、検討したい。

島民会議の参加者については、昨年度の一般参加者は、興味のある方が多かったが、今年度は町議、PTA、大学教授、その他八丈町で様々な活動の中心になっている方などが参加した。このことから、八丈島、その他の地域について、島民会議が浸透しつつあり、「高校生が地域を変える」という1つの目標に大きく前進していると考えられる。